

## 令和3年度 学校教育目標

### 1 校訓・基本理念・教育目標

- (1) 校 訓 自主、健康、友愛、忍耐
- (2) 基本理念 生徒、保護者、地域の人々から信頼される学校づくり
- (3) 教育目標
  - ・ 自ら学び意欲を持った生徒を育てる。
  - ・ 心身ともに健康で明朗快活な生徒を育てる。
  - ・ 礼儀正しく思いやりのある心を持った生徒を育てる。
  - ・ 忍耐強く取り組む生徒を育てる。

### 2 教育方針

- ・ 自己指導能力に加え、提案型能力を持った生徒の育成を推進する。
- ・ 人間尊重の精神を基盤に、生徒と教師および生徒相互の温かい人間関係を育てる教育を推進する。
- ・ 保護者・地域と連携し、感謝の気持ちを大切に教育を推進する。
- ・ 生徒と教師および生徒相互の対話を大切にし、認め合える・励まし合える関係を構築する教育を推進する。

### 3 目指す生徒像・学校像・教師像

#### (1) 目指す生徒像

- ・ 学ぶことが楽しいと感じる生徒
- ・ 笑顔いっぱいの生徒
- ・ 自分の言葉で気持ちを伝えられる生徒
- ・ やり抜く生徒

#### (2) 目指す学校像

- ・ 生徒一人一人の学力を保証する学校
- ・ 生徒にとって安心・安全な学校
- ・ 保護者・地域に開かれた学校
- ・ 生徒に向き合う時間が確保された学校

#### (3) 目指す教師像

- ・ 授業で勝負できる教師
- ・ 生徒を守り抜く教師
- ・ 信頼される教師
- ・ 気づきがある教師

### 4 経営方針

教育活動全体を通して、自己指導能力育成をめざした教育活動を推進することでこれからの時代に必要な資質・能力を育てていく。

- ・ 主体的かつ自ら判断して行動できる生徒を育てる。
- ・ 生徒それぞれの「過去・現在・未来」を尊重した関わりを推進する。
- ・ 「聴く」「話す」の対話を大切にする。

### 5 中期目標と方策

#### (1) 中期目標

- ・ 教職員一人一人の力量に応じて、着実に指導力を身につけさせることで、組織力を高める。
- ・ 教職員が同方向で一丸となって指導することで、生徒個々の能力を十分に発揮させる。
- ・ 学校の取組を積極的に発信することで保護者・地域の信頼を高める。

## (2) 方策

- ・ 日々の会話を大切にし、教職員一人一人の良さを理解する。
- ・ 日々の教育活動を積極的に参観し、個に応じた助言を行う。
- ・ 「金沢型学習スタイル」を基にした「みどりの授業スタイル」を推進することで「わかった」「できた」を通して学ぶことが楽しいと感じることができる学習活動の充実を図る。
- ・ すべての教育活動において、目的を明確にして意図的に取り組む。
- ・ 些細なことでも保護者と連絡を取り合える関係を構築する。
- ・ 積極的に地域に出向き、地域の教育力を活かした教育課程を工夫する。

## 6 今年度の重点的な取組目標と具体的な方策

### (1) 「わかった」「できた」を通して学ぶことが楽しいと感じることができる学習活動の充実

- ① 「金沢ベーシックカリキュラム実践推進事業」を活用し、授業力の向上を図る。
- ② 小学校との連携を強化し、学習規律（授業の心得）を徹底する。
- ③ 「みどりの授業スタイル」を教師と生徒が共有し、習慣化する。
- ④ 教科主任会・教科部会の定期的な開催・内容の充実を図る。
- ⑤ つけたい基礎知識と思考力・判断力を明確にした授業を行うとともに家庭学習の充実を図る。
- ⑥ G I G Aスクール構想をもとに、タブレット・デジタル教科書等を積極的に導入し、これからの時代にふさわしい授業を行う。

### (2) 新しい時代を生き抜く人間力を育成する教育活動の充実

- ① 年間を通した保護者・地域と連携した挨拶運動を実施する。
- ② 生徒の「気づき」を大切にされた清掃活動を実施する。
- ③ 生活目標の意識を高め、自己決定や表現しやすい環境整備に努める。
- ④ 「グッドマナー実践モデル校」や「いしかわ学校版環境 I S O 認定校」等の事業を活かし、生徒の活動を認めることで自己肯定感を高めたり、生徒が意見交流する場面を設定することで共感的人間関係を育くんだりできるよう工夫する。

### (3) 主体的に健康づくりや体力づくりができる生徒の育成

- ① 生徒一人一人の人権を大切にし、いじめや不登校等の未然防止に努めるとともに、教育相談体制の充実を図り、早期発見・早期対応に努める。
- ② 「心の健康」「歯・口の健康」を重点事項に設定し、教育活動全般を通して指導する。
- ③ 生徒の目線にたった安全教育・安全管理の徹底を図る。
- ④ 自主的な部活動のあり方を構築するとともに、効果的・効率的な活動方法を推進する。

### (4) ライフステージに応じた人材育成

- ① 会議方法や週時程、部活動の活動時間の工夫を通して、教材研究や生徒指導の時間を確保することで指導力の向上を図る。
- ② 若プロコーディネーターおよびG I G Aスクール推進リーダーを中心に、校内研修の充実を図り、教師の指導力向上に資する。
- ③ 主幹教諭や主任の指導助言が効果的となるよう、日頃からのコミュニケーションを大切にする。
- ④ 様々な教科の授業を積極的に参観し、他者の良さや課題の改善に向けて話し合う機会を設ける。
- ⑤ 教科主任会・教務部会の機能をさらに充実させる。
- ⑥ 各自が自己の強みと弱みを知ることで、自己の成長のための研修に主体的に参加する雰囲気を醸成する。

7 具体的な方策の工程表

期	月	学習活動の充実	人間力の育成	主体的な健康づくり	人材育成
通年		授業実践、教科部会 特別学習日の設定	清掃活動 挨拶運動 生活目標	健康観察 給食指導 部活動	授業参観 教科部会 運営委員会 若プロ
1 学期	4	共通理解（職員会議） 各種学力調査 学力向上の取組作成	共通理解（職員会議）	共通理解（職員会議） 身体測定 部活動発足会 遠足 施設点検	共通理解（職員会議） K-1 2 研修 エピペン講習会 校外研修申し込み
	5	授業参観 スクールフォーラム 中間テスト	田植え体験	自転車安全運転講座 部活動の日	目標面談 若プロ
	6	小中一貫の日 総合訪問	総合訪問	性教育講演会 歯科保健指導 県体予選	
	7	期末テスト 保護者懇談	資源回収 個人面談	県体	若プロ
2 学期	8	学力向上の取組作成	二塚夏祭り	施設点検	各自研修 AED研修
	9		運動会 金沢絆活動	運動会 新人大会	目標面談
	10	中間テスト	遠足、文化祭 PTAバザー 稲刈り体験	修学旅行・遠足	
	11	公開研究会(11/16) 授業参観 期末テスト			公開研究会(11/16)
	12	学力向上の取組作成 保護者懇談	個人面談 餅つき体験	施設点検	若プロ
3 学期	1				目標面談
	2	授業参観 スクールフォーラム 期末テスト 次年度教育課程作成	資源回収		
	3	次年度の学力向上策	個人面談	施設点検	

## 8 教職員の業務適正化に向けた具体的な取組

### (1) 勤務時間管理に関すること

- ・ 月2回以上の定時退校日を設定する。
- ・ 全職員が、月80時間を超えないことを目指す。

### (2) 意識改革に関すること

- ・ 最終退校時刻を19時30分に設定する。
- ・ 定時に退校することに遠慮しない雰囲気をつくる。
- ・ 職員会議等を通して、時間を生み出すことの大切さを伝える。

### (3) 会議・校内研修に関すること

- ・ 会議すべき内容を厳選する。
- ・ 職員会議は電子データで行い、提案方法の改善を図る。
- ・ 教職員の資質向上に必要な研修に絞る。
- ・ タイムマネジメントの意識向上を図る。

### (4) 学校が行う調査・学校からの連絡に関すること

- ・ 校内アンケートは「K-12」を有効活用する。
- ・ これまで以上にメール配信を推進する。

### (5) 校務分掌・学校行事・日課に関すること

- ・ 効率性を考えて、業務及び行事内容の見直しを積極的に行っていく。
- ・ 日課を工夫し、効率的・効果的に行う。
- ・ 印刷物は、事務職員と連携して効率的に行う。
- ・ テストの採点は、学年等で協力して行う。

### (6) 環境整備・ICT化に関すること

- ・ サーバを整備し、教材の共有化等を推進する。(完成したものはサーバに保存)
- ・ 生徒に日々の環境整備の意識を高め、掃除なしの日が設定できるよう指導する。

### (7) 部活動に関すること

- ・ 終礼時刻を20分早くすることで、完全下校時刻(部活動終了時刻)30分早める。
- ・ 休養日は、原則、週2日以上、平日1日と週休日1日とする。
- ・ 通常練習における1日の活動時間は、平日2時間程度、学校の休業日は3時間程度とする。
- ・ 夏季休業中の学校閉庁日は、部活動はしない。
- ・ これらのことを踏まえ、これまで以上に効率的・効果的練習方法を生徒とともに考える。